

★本田の作業の始まりです。気象変動に負けない強い苗づくりのために、きめ細やかな温度管理と水管理で健苗の育成に努め、事故、怪我には十分注意し作業は計画的に進めましょう。

## 育苗管理

ポイント☞ 育苗期間を通じて温度を上げすぎず、水を控えめにすると丈夫な苗ができます。

箱土の水分 { 乾燥 → 出芽が不揃いになる、生育が遅れる。  
過湿 → 芽が出にくい、クモの巣カビ病が発生しやすくなる。

～降霜・低温対策～

ハウス育苗：シルバーポリトウなどの被覆資材で苗を被覆する。

折衷苗代：被覆資材を2重にしたり、育苗箱の肩の高さまで灌水する。

日数 (日)	区分	苗姿	温度		内容
			日中	夜間	
0~5	出芽期		35℃ 以下	10℃ 以上	○ シルバーポリトウなどの平張り被覆は8割程度の出芽を確認したら取り除きましょう。 ※ 全て芽が出揃うまで待っていると、伸びすぎてしまい、ひよろひよろした弱い苗になってしまいます。 ○ 乾燥していて出芽しない場合は、被覆をはずして灌水を十分行いましょう。
5~12	1.5葉期		30℃ 前後	5℃ 以上	○ 日中30℃以上の高温にならないよう、換気を行いましょう。 ○ 水管理は、過湿にならないよう注意し、灌水は朝方に行いましょう。
12~24	1.5 ~ 3.0葉期		25℃ 前後	5℃ 以上	○ 灌水は箱土の水分を確かめ、苗の葉先が巻き始めたころ、朝方にたっぷり行いましょう。 ○ 育苗箱への追肥は、葉色が淡くなった場合に硫酸を1箱当たり現物で5gを500ccの水に溶かして灌注します。 朝または夕方の灌水前に散布し、追肥後必ず水洗いを行い葉焼けを防ぎましょう。
24~30					
30~35	3.0 ~ 3.5葉期		20℃ 前後	5℃ 以上	○ 霜の降りるとき以外は外気に慣らして、硬く丈夫な苗に育てましょう。 ○ 田植えの5日位前から日中全面開放し、夜間は上部のみを被覆し両裾は開きましょう。

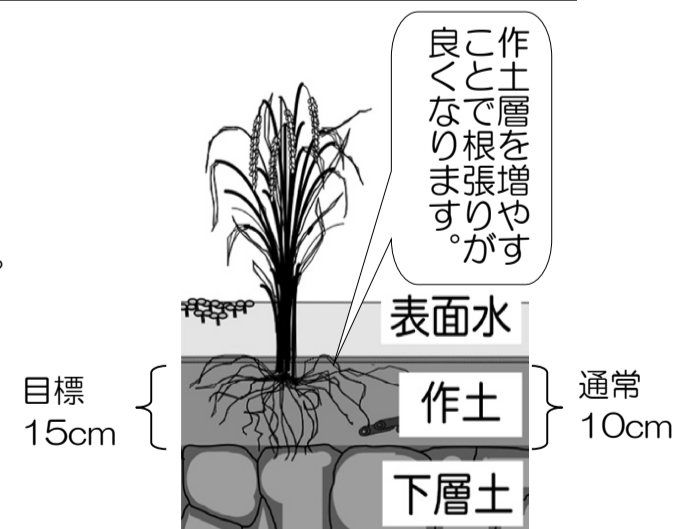
## 本田作業

耕起～施肥

- ② 耕起は深さ15cmを目標に行い、根が良く張っていける環境をつくりましょう。
- ② ケイ酸質資材を積極的に使用しましょう。
- ③ 施肥量が多いと倒伏や病気の発生につながります。適正な施肥量を心がけましょう。

## 肥料

	品名	タイプ	1袋当りの成分			袋数(10a)	
			N	P	K	つがるロマン	まっしぐら
土壌改良材	スーパーケイサン		—	1.2	—	2~3	2~3
基肥	つがるロマン	有機	2.0	3.0	2.0	2.5	3.5
	有機化成エコ米	有機	2.0	2.4	1.2	2.0	3.5
	マップ264号	化成	2.4	3.2	2.8	2.0	3.0
	高度化成オール14	化成	2.8	2.8	2.8	2.0	2.5
全量基肥	ニューてまいらず	化成	2.0	4.0	2.8	3.5	4.5
	水稲春一発	化成	2.0	2.0	2.0	3.5	4.5
	あど楽一発	化成	4.0	3.0	3.0	2.0	2.5



※土壌改良資材（スーパーケイサン等）を使用することで食味向上や倒伏軽減につながります。  
※土質に応じた基施肥、生育に応じた追肥をしましょう。

## 田植え

- つがるロマン・まっしぐらは分けつしにくい品種です。株数を多く入れ穂数を確保しないと収量の確保が難しい品種です。坪当たり80株植えを行い、収量確保に努めましょう。
- 田植えは代枯れの予防や活着促進のため、天気の良い温かい日に行うようにしましょう。